

遠山邸大広間

端午の節句飾り

4/17(水)-5/6(月・祝)



遠山邸2階

春の公開日

4/7(日)

5/18(土)

6/1(土)



秋の公開日

9/28(土)

10/26(土)

11/16(土)

遠山邸大広間

雛壇飾り

2/8(土)-3/15(日)



4/2(火)-5/6(月・祝)

春季館蔵名品選

遠山記念館は、昭和45年(1970)の開館以来、貴重な文化財の収集・保管に務めてきました。本展では館蔵の名品の中から、弘法大師筆と伝えられる重要美術品「法華経普賢菩薩勸発品」、岡本秋暉の秀作「桜花雉子図」、古代中国の銅器「饗饗文尊」を中心に展示いたします。また併せて新たに寄贈を受けた遠山元一ゆかりの作品を紹介します。



5/18(土)-6/30(日)

茶道具と華布

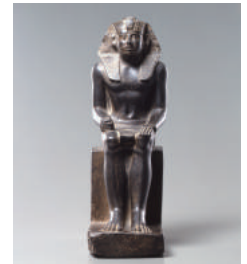
華布-かふ-とは、主に綿布に花鳥や人物・動物文様を色鮮やかに表した染布、「更紗(さらさ)」の異名です。室町時代以降、交易によりインドを始め世界の更紗が多数将来され、衣料や小物、茶道の包み布等に用いられ人気を博しました。今回は茶道具とともに館蔵の世界の更紗、日本の「和更紗」を産んだ文化的背景に思いを寄せつつ茶の湯の雰囲気を感じてみてください。



7/13(土)-9/1(日)

遠山記念館のオリエント美術

遠山元一は当館開館前後にオリエントの蒐集をはじめ、その中にはファラオをかたどった中王国時代の「王座像」、美しい彩色の残る新王国時代の「供養碑」など、優れた作品が含まれています。また元一は、エジプトやイランで制作された、古代オリエントのガラス製品も蒐集しました。昨年度は東京理科大学の協力で蛍光X線調査を行い、その学術研究の成果を併せて紹介いたします。

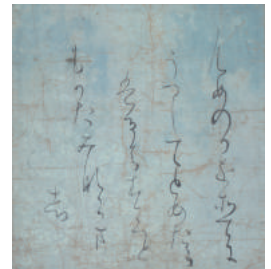


9/14(土)-10/20(日)

特別展

古筆招来

平安時代の仮名書を代表する館蔵の高野切・寸松庵色紙・石山切それぞれの連れとなる名筆を招来して、これまでにない名筆と出会う内容です。30年ぶりの展覧会出品となる待望の寸松庵色紙、石山切が含まれます。古筆切の歌集本文の位置は飛び飛びで、書き始めと、中頃、終盤では書きぶりは変わってきます。切ごとの一瞬一瞬の煌きと豊かな表現をご堪能ください。



11/2(土)-12/15(日)

ヨーロッパの美しい意匠-服飾を中心に-

祭礼用司教服(フランス)からマリア・モチガ・ガレンガのイブニングドレス(イタリア)まで、18世紀から20世紀前半にかけてのヨーロッパの服飾を中心に展観いたします。華やかな織り、精緻な刺繍、美しいレースなど、それぞれの時代を代表する服飾技術の粋をお楽しみください。フランドルのタペストリー(16世紀末)などの工芸品、また、アメリカの婚礼衣装(19-20世紀)も展示いたします。



2020

2/8(土)-3/15(日)

雛の世界

江戸期に開花した人形文化は、日本独自の雛人形を母体として、多種多様な人形を生み出してきました。享保雛、次郎左衛門雛、古今雛や高さが2cm程の芥子雛、また近代の名工の作品など、様々な雛人形の他、嵯峨人形、御所人形、賀茂人形、抱き人形などを展示し、日本の人形の歴史をたどっていきます。日本の人形が持つ魅力をご堪能ください。



開館時間 午前10:00～午後4:30(入館は4:00まで)

入館料 特別展 大人1000円(800円) 学生700円(560円)

通常 大人 700円(560円) 学生500円(400円)

中学生以下は無料、()は団体料金です。

休館日 月曜日(祝祭日の場合は開館、翌日休館)

また下記の日に臨時休館をいただきます。

4/16(火)、5/8(水)、12/21(土)-20201/6(月)、

2/7(金)、3/17(火)